

予防、診断、治療、フォロー、サポート。
すべての患者に対して、標準的な治療・ケアが適用できるわけではありません。
様々な合併症、薬剤の相互作用、心理的サポートの介入時期、
患者ニーズへの対応、医療経済的問題……。
がん診療では、そのほとんどのケースにおいて、個別性が前提となっています。
標準治療の少し先を考えるためには、
現場に即した「問い」と異なった視点による「答え」を知ることも必要ではないでしょうか。
Q&Aは企画者が設定しました。
Clinical Questionに対して、エキスパートが視点の異なる考えを提示します。

View-point

がん診療

「卵巣がん・卵管がん・腹膜がん」

Q&A企画： 勝俣範之（日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科）

Answer： 松本光史
（兵庫県立がんセンター 腫瘍内科）

相原聡美
〔佐賀大学医学部附属病院 産婦人科（腫瘍内科）〕

喜多川亮
（東北医科薬科大学 産婦人科）